

# 環の拠点創出事業運営について

木津川市環の拠点創出事業活性化検討会  
平成27年3月24日－第1回検討会

# これまでの検討内容①

## 環の拠点創出事業のコンセプト



### 地域との交流の環（わ）

- ①「本物のお茶」の発信
- ②地域特産物の提供
- ③市内の観光ルート拠点
- ④市外との広域的な観光連携



### サイクリングの環（わ）

- ①サイクリストの誘客
- ②サイクリストの観光
- ③休憩所などの設置
- ④サイクリングの拠点



### 健康づくりの環（わ）

- ①地域住民の楽しみ
- ②高齢者の交流
- ③各種サークルの紹介
- ④老人クラブ等の活動



### 地域振興・サイクリスト等の誘客に向けて

- ①茶問屋街において、既存の地域資源とニーズの融合を図り、サイクリストにターゲットを絞った拠点を整備
- ②広域のサイクリングルートの拠点として活用
- ③サイクリスト等を誘客するための拠点として活用

# これまでの検討内容②

## ① 拠点施設の選定、設置方法

本事業の検討にあたり、自転車道の起終点である泉大橋南詰から近く、また上狛南部地域の茶問屋街の玄関口となる拠点施設を検討した。

施設名：京都やましろ農業協同組合倉庫  
地番：木津川市山城町上狛北的場15番地  
面積：約165㎡  
所有者：京都やましろ農業協同組合  
使用者：木津川市山城町商工会  
施設整備者：木津川市

## ② 拠点施設の配置

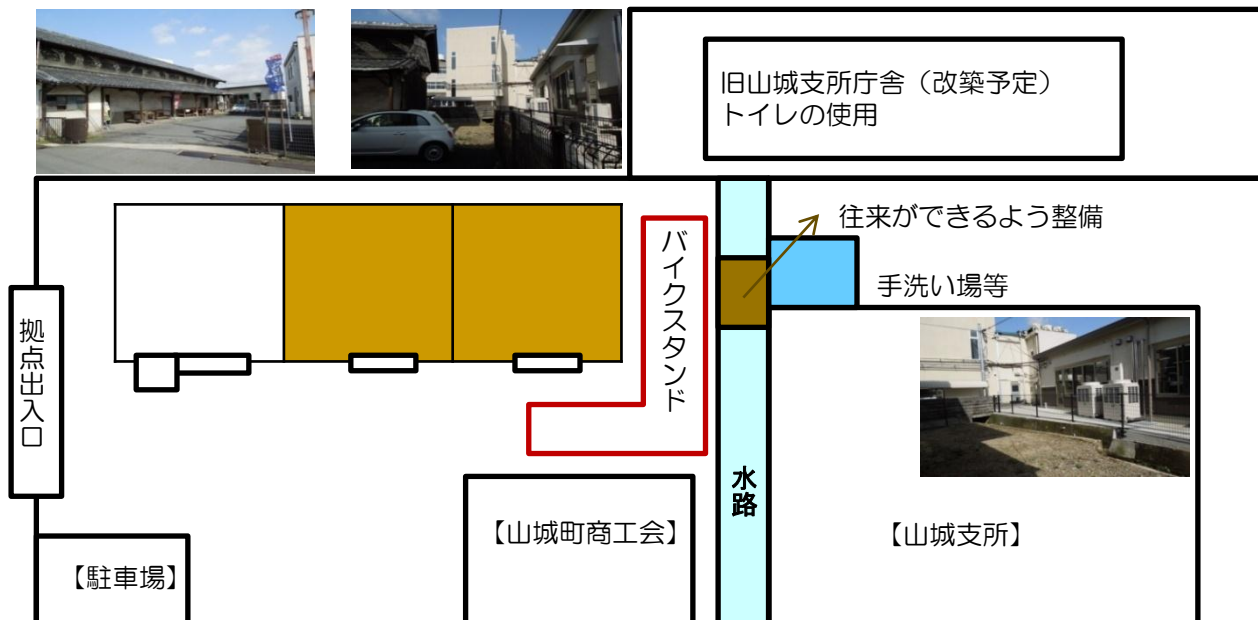
拠点施設の配置等については、次のとおり整備イメージを検討した。

### 施設内部イメージ

施設の内部は、現存活用を基本として、2区画（それぞれ約45㎡程度の正方形【6.7m×6.7m】）を地元地域向け機能とサイクリスト向け機能として設置する。

### 施設周辺全体イメージ

周辺施設に配慮しながら訪問者等が、わかりやすく移動できるような整備を行う。



# これまでの検討内容③

## ③ 拠点施設への導入機能

導入機能については、地域交流・健康づくりの環に必要となる機能を、またサイクリングの環については、自転車アンケートの調査結果を基に検討した。

### 基礎的機能

トイレ、駐車場、自動販売機（飲物）等

### 地域との交流向け機能

会話スペース（ベンチ）等

### 地域振興向け機能(地元PRコーナー)

地元野菜直売所、地元特産品販売所（展示含む）、観光案内マップ・看板（拠点施設 周辺の歴史文化など）等

### サイクリスト向け機能(サイクリスト支援コーナー)

バイクスタンド、スリッパ（サイクリストシューズ履き換え用）、水道設備（洗面及び手洗い・自転車洗車用）、サイクリスト用マップ、サイクリスト伝言掲示板、有料駐車場、サイクルピット、コインシャワー、レンタサイクル等



【自動販売機】



【ベンチ】



【バイクスタンド】



【農産物販売所】

## ④ 拠点施設の整備方針

不特定多数を集客する公共施設として、建築基準法やバリアフリー法等を考慮し、安全な施設としての整備を図るものとする。

## ⑤ 拠点施設及び周辺への配慮点

### 拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・ 泉大橋（京都八幡木津自転車道線起終点）からのサイン等による安全誘導
- ・ 自転車による交通事故防止対策（道路整備・注意喚起）

# これまでの検討内容④

## ⑥ 運営の主体

実行委員会方式とし、市は、各種団体へ設置及び参画の協力依頼に努める。  
地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織（【仮称】環の拠点実行委員会）を立ち上げ、事業を展開する。

### 実行委員会方式のメリット

運営主体	メリット
実行委員会	①企画段階から、各主体の意見を議論し、事業を実施することで、適切な <u>パートナーシップ</u> を築くことができる。 ②各参加団体に協力いただくことで、それぞれの団体が持っている <u>情報やノウハウ、人的パワーなどを活用</u> することができ、 <u>市民ニーズに即した企画</u> や、より規模の大きなイベントの実施が可能となり、 <u>幅広い参加が期待</u> できる。

### 実行委員会方式の流れ

事業の実施状況を確認し、  
計画(Plan)→  
実施(Do)→  
点検(Check)→  
見直し(Action)  
のプロセスを繰り返し行  
う、PDCAサイクルに  
より、事業の達成状況な  
どを管理します。



# 今年度の検討

## ① 今年度の予定事業内容

- ▼施設整備 拠点施設耐震診断・補強改修設計
- ▼施設運営
  - ・実行委員会の枠組みによる具体的な運営方法
  - ・来年度の開設に向けたプレイベントの開催
    - ※11月30日 山背古道とことんウォーキング、山城茶業組合イベントと同日実施



## ② 今年度の動き

5月	拠点施設耐震診断・補強改修設計業務 指名競争入札の執行（6社から入札）
6月	平成26年第2回定例会で木津川市環の拠点創出事業活性化検討会条例を可決
7月	委託会社から耐震診断の結果報告・補強案について提案
12月	補強改修設計 基本計画・実施計画の作成、建築物耐震診断改修計画判定審査
3月	建築物耐震診断改修計画判定審査の決定、補強改修設計完了
3月	木津川市環の拠点創出事業活性化検討会の開催

## ③ 耐震調査結果の概要

- ▼耐震診断の結果について
  - ⇒現況建物は耐震性能を有していない。有していると判断できる数値：IW値1.0以上
  - X方向の数値：IW値0.36（0.64不足）、Y方向の数値：IW値0.27（0.73不足）
- ▼結果に基づく修繕概算について
  - 景観をできるだけ維持するため、特殊部材での耐震補強の場合 約3,200万円
  - ※本体工事のみ外構費約300万円、その他什器等事務費 別途必要

# 事業運営に向けて①

## ① 拠点の考え方について

拠点施設に位置付けた農協倉庫の改修見直し

外観を保持したうえでの耐震強度確保には多額の投資が必要  
↓ (将来的な事業継続の担保・費用対効果の視点)

農協倉庫の利用内容について見直し

- 農協倉庫は、環の拠点「シンボリック建物」として活用
- 木津川市商工会山城支所、市山城支所別館および両敷地の複合的利用

農協倉庫の整備は、環の拠点創出事業のシンボルとして備えるべき機能の範囲内において、費用対効果や運営組織の活動に応じた整備を行う

## ② 区域について

拠点施設から拠点区域への拡大

計画書では農協倉庫が拠点施設の位置付け

↓

拠点区域＝事業区域の拡大

東：国道24号東側  
(福寿園ティーパック工場)

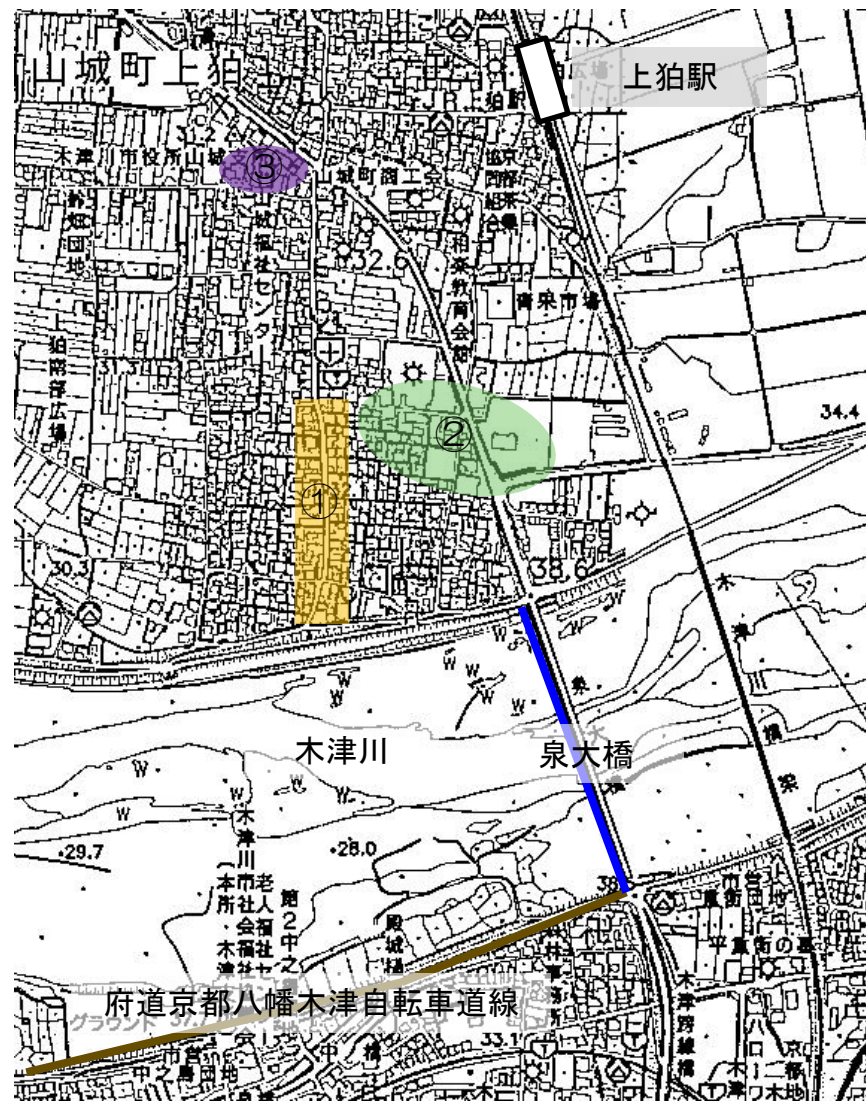
西：茶問屋の現存区域

南：木津川の堤防付近

北：JR上粕駅付近

地域全体での  
取組  
「広がり」  
＋  
「多様な魅力」

- 区域内拠点
- ①茶問屋街
  - ②福寿園資料館周辺
  - ③木津川市商工会山城支所・農協倉庫・支所別館



# 事業運営に向けて②

## ③ 運営組織について ★

木津川市環の拠点創出事業活性化検討会で具体化へ

(提案) 商工会や茶業組合による事務局を核とした拠点施設利用団体によって運営とりまとめ役組織を構成し、多彩な関係者(プレイヤー)による多種多様な事業展開を実施

全般的な拠点施設に関すること	○拠点施設のPR活動	○各団体のイベント会場としての活用
地元地域に関すること	○各種サークルの紹介と交流活動	○老人クラブ等の地域活動
農業に関すること	○地元野菜・農産物の朝市販売 ○各種農林生産組合の活用	○規格外農産物等の低価格販売
商工に関すること	○地域特産品の開発・販売・展示 ○拠点カフェの設置	○弁当(地域特産品使用)の販売
観光に関すること	○観光モデルコースの検討 ○スタンプラリーの実施	○観光マップの作成 ○木津川市マスコットキャラクター(いづみ姫)の活用
茶業に関すること	○お茶の淹れ方講座の実施	○お茶の販売・提供サービス ○茶問屋・お茶の歴史等の紙芝居
サイクリングに関すること	○サイクリスト講習会の実施 ○修理店舗の案内 ○サイクリングマナーの案内・発信	○ツーリングイベント等の企画 ○サイクリングコースの新設・案内 ○電動アシスト付き自転車レンタル

## ④ 地域の機運醸成について ★

事業の展開や継続性において機運醸成は最重点課題

3つの環のうち「地域との交流の環(わ)」「健康づくりの環(わ)」の実現には、積極的な地域住民参加のほか、拠点でのプレイヤーによる事業の展開・情報発信などが求められる。

## ⑤ お茶の京都構想との連携について

「お茶の京都」は、京都府と府南部市町村による、地域活性化への取組。  
木津川市においては、上狛南部地域の「茶問屋」を中心に進めており、双方の事業は連携・連動が不可欠である。